

## 「大好き。」を言葉に

二年 能島梨沙

私には、生まれたときから一緒にいたおばあちゃんの家の犬、ハッピーがいました。アルバムには、生まれたばかりの私とハッピーが遊んでいる写真が今でも残っています。私よりもハッピーは年上で、いつも一緒に遊んだり昼寝をしたり、おやつをあげたりと、いつも一緒にいる親友のような存在でした。

私が小学一年生のときに、国語の教科書で「ずーっと、ずっと、だいすきだよ」というお話に出会いました。飼い犬に毎晩「大好きだよ。」と言いつづけた少年が出てきて、私もその少年のようにハッピーが好きなことを伝えようと決意しました。そのときハッピーはもう十三歳になっていました。それからおばあちゃんの家に行ったら、帰るときに「大好きだよ。」と言いつづけました。夜になって眠いときも、少し体調が悪いときも、ハッピーの頭を撫でて「大好きだよ。」と言いました。

それから三年後、私が小学三年生のときにハッピーは死んでしまいました。もちろんとても悲しく、辛かったです。しかし、十六年間頑張ってくれたな、今まで一緒にいてくれてありがとう、という気持ちが強かったです。これは、毎週のようにハッピーに「大好きだよ。」と自分の気持ちを言葉にして伝えます。

続けていたからだと思います。伝えていなかったら、もっと優しくすればよかった、「大好き。」と言っておけばよかったと後悔が多く残ったと思います。しかし、言葉で伝えることで、当たり前と一緒にいてくれるハッピーのありがたさ、どんなに勇気づけられてきたかを学ぶことができました。

それから私は、セキセイインコを飼いました。名前はプリンで、今は五歳の女の子です。プリンは、私が泣いているとピヨピヨと鳴いて励ましてくれたり、学校から帰ってくると頭の上に乗って喜んでくれたりと、いつもプリンが心の支えになっています。

また、プリンにもハッピーと同じように、寝る前に「おやすみ、大好きだよ。」と言うようにしています。

セキセイインコは手にすっぽりと収まるくらいに小さいです。しかし、命の重さや尊さは犬や私達人間と同じだと思います。だから、自分の大好きな気持ちを動物に伝えることで、幸せも届けていきたいと思います。そうして私達ばかりが動物に幸せを与えてもらうのではなく、私達からも動物に幸せを与える、そんな関係になりたいです。

動物は、言葉を話すことはできません。しかし、私達が話しかけたり一緒に遊んだりすることでこの家に来て良かった、幸せだなと思ってもらうことはきっとできます。そんな「幸せ」を私はたくさんの動物に届けて行きたいです。